

## 特別講演Ⅰ

---

# がん患者に対するリハビリテーション

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授

岡村 仁

## 特別講演Ⅱ

---

# 在宅医療とリハビリテーション

～たとえ死に至る病であっても、  
最期まで人生を肯定する医療～

医療法人社団 CMC コールメディカルクリニック広島 院長

岡林 清司

# がん患者に対するリハビリテーション

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 教授

岡村 仁

---

がん患者に対するリハビリテーションは以前より臨床の場で実践されていたものの、あまり認識されてこなかった。しかし、2010年度の診療報酬改定で、がん患者リハビリテーション料が新設されたことを契機に、がんのリハビリテーションに関心が向けられるようになってきた。本講演では、われわれが取り組んできた研究である、①わが国におけるがんリハビリテーションの実態、②がん患者・家族のリハビリテーションニーズと心理面への効果、③進行がん患者に対するリハビリテーションマニュアルの作成、について報告したい。

### 在宅医療とリハビリテーション

～たとえ死に至る病であっても、  
最期まで人生を肯定する医療～

医療法人社団 CMC コールメディカルクリニック広島 院長

岡林 清司

---

在宅医療・介護の目的は、病気や障害を抱えた人や癌や難病で治療法のない人などを家庭に帰し、再び社会の中で活動できるようにすることにある。そこでは、生活することが重要であり、「喪失からの再生」がキーワードとなる。在宅医療は、あたかも終末医療のように誤解されているが、「最期まで人生を肯定する」ことを援助するシステムである。これまでの医療は、「学」(サイエンス)をベースにして、「術」(アート)を使って治すものと考えられてきた側面があるが、本来、医療は「道」(ヒューマニティ)がもう一つの柱である。たとえ障害があっても、さらには死にいたる病であっても、最期まで人生を肯定する在宅医療の中で、リハビリテーションの果たす役割を皆さんとともに考えたい。

A series of horizontal dashed lines for writing.

## ランチョンセミナー

第1会場：臨床講義棟 第4・5講義室

# 四肢痙縮のボツリヌス治療の実際

帝京大学医学部リハビリテーション科 教授

栢森 良二

## 四肢痙縮のボツリヌス治療の実際

帝京大学医学部リハビリテーション科 教授

栢森 良二

---

ボツリヌス治療はボツリヌス毒素を筋注することによって痙縮を軽減させ、日常生活動作の拡大や、四肢変形を改善することである。主な治療対象として、1)脳卒中などによる痙性片麻痺による、いわゆるウェルニツケーマンの変形肢位、2)脳性麻痺による下肢交叉変形(はさみ肢位)、股膝屈曲変形(かがみ肢位)、さらに内反尖足変形、3)「寝たきり」にともなう股内転筋、膝屈筋拘縮による「屈曲性対麻痺」がある。具体的な施注法を講演する。

## 特別会場

### 心臓病教室のご案内

場 所：広島大学病院リハビリテーション科(入院棟5階東)

開催時間：午前の部 9:00～10:45

テーマ・内容	講 師
当院における心臓病教室	看護師
心臓リハビリテーション	理学療法士
心臓の薬について	薬剤師
食事ってどうしたらよいの？	管理栄養士

開催時間：午後の部 15:00～16:20

テーマ・内容	講 師
心臓病について	医師
心臓の検査について	臨床検査技師
日常生活の過ごし方	看護師

---

## 心臓病教室の実際

---

平成23年度厚生労働省の人口動態統計によると、心疾患による死亡者は194,926人と死因の第2位であり、総死亡率の15.6%にあたりとされ、平成22年と比較し4.7%アップしている。

心不全症例は、壁運動低下や身体活動能力の低下、致死的不整脈がみられる心血管病の最終臨床像である。今日のような長寿社会の中では、循環器疾患に加え多くの合併疾患を有する高齢者が増加しており、入退院を繰り返す事により、徐々に患者負担・家族負担・社会負担は増大し、要介護状態を強いられている。

広島県では、平成23年度より地域医療再生計画の中で、心疾患患者の再入院率低下を目的とし、心不全地域連携サポート体制の構築にむけた取り組みを始めた。その中で、広島大学病院では、医師・看護師・理学療法士・薬剤士・管理栄養士・臨床検査技師など多職種からなるサポートチームが、心疾患患者やご家族に対し、病態や検査に対する理解、薬や栄養、運動など日常生活における注意点などについての知識を深めていただく心臓病教室を開催している。

本セッションでは、実際の心臓病教室での講演内容を各専門スタッフにより紹介する。